

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
国際関係法要論【MR】 (International Legal Studies)	MPCC11	2	1年次	前期	松井 章浩(マツイ アキヒロ)

授業のねらい概要	国際法の一つの機能は、国に自国領域内における排他的な管轄権を配分することである。それゆえ、国内法は基本的に自国領域内における適用、執行を前提としている。他方、人、物、資本は容易に国を越えるようになり、情報も犯罪も国を越える。知的財産も国を越える。それでは、法は国を越える人、物、行為をどのように扱うのであろうか。本講義は、国際的な知的財産問題を考察する科目を履修する基盤を形成するために、国際法、国際私法の基礎知識を獲得するとともに、知的財産をめぐる国際法事例、国際私法事例を検討することにより、国際社会における知的財産問題を法的に考察する能力を獲得することをめざす。
----------	--

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	国際関係法の射程	国際法と国際私法の相違	〔予習〕シラバスを読み、講義内容を把握する。(2時間) 〔復習〕講義で配布された詳細なシラバスを参照し、国際法・国際私法の全体像を把握する。(2時間)
第2回	国際法における「国」①	国家承認、未承認国の法的地位	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第3回	国際法における「国」②	〔事例研究1〕未承認国民による国際特許出願	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第4回	国際法における「国」③	属地主義、管轄権の制限と競合	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第5回	国際法における「国」④	〔事例研究2〕営業秘密侵害罪の国外犯	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第6回	経済連携協定における知的財産問題①	欧州連合における知的財産問題	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第7回	経済連携協定における知的財産問題②	日本が締結している経済連携協定における知的財産問題	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第8回	経済連携協定における知的財産問題③	TPPの全体像	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第9回	経済連携協定における知的財産問題④	〔事例研究3〕TPP知的財産章の国内実施	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第10回	国際的な民事紛争の解決①	国際裁判管轄	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第11回	国際的な民事紛争の解決②	国際私法の基本原則	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第12回	国際的な民事紛争の解決③	準拠法決定の方法	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第13回	国際的な民事紛争の解決④	外国判決の承認執行	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第14回	国際的な民事紛争の解決⑤	〔事例研究4〕特許権の効力、職務発明	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)
第15回	国際的な民事紛争の解決⑥	国際仲裁、投資紛争解決	〔予習〕資料を事前に通読する。(2時間) 〔復習〕事前の予習、講義での検討を踏まえて、もう一度、復習を行い、研究メモを作成する。(2時間)

到達目標	(1) 国際関係を規律する法について、基礎的な知識を獲得する。 (2) 国際法秩序と国内法秩序の相互関係を理解することができる。 (3) 国際社会で生じている法的問題を複眼的な視点で把握することができる。
評価方法	2回の提出を求める「研究メモ」と「講義への参加状況(出席、講義中の発言など)」により、到達目標に達しているかどうかを評価する。 ・到達目標(1)には60点を配分し、「研究メモ」と「講義への参加状況」により総合的に評価する。 ・到達目標(2)、(3)には40点を配分し、「研究メモ」のみにより評価する。
成績評価基準	3回以上の欠席がある場合、あるいは、2回の「研究メモ」をすべて提出していない場合、到達目標(1)を達成することができないものとし、不合格とする。 ただし、録画形式メディア授業であるので、録画を見て、別途指定するレポートを提出した場合は出席とみなすこともある。 到達目標(1)を達成している場合にかぎり、到達目標(2)、(3)を評価する。 A: 到達目標(1)を達成し、到達目標(2)、(3)を高い水準で達成している。 B: 到達目標(1)を達成し、到達目標(2)、(3)を達成している。 C: 到達目標(1)を達成し、到達目標(2)か(3)のいずれか一方を達成している。 D: 到達目標(1)を達成している。 F: 到達目標をまったく達成することができない。

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
レジュメ		講義中に配布する。	国際法	酒井啓吾、寺谷広司、西村弓、濱本正太郎	有斐閣
			国際法判例百選〔第2版〕	小寺彰、森川幸一、西村弓 編	有斐閣
			国際私法(Legal Quest)	中西康、北澤安紀、横溝大、林貴美	有斐閣
			国際私法判例百選〔第2版〕	櫻田嘉章、道垣内正人 編	有斐閣

受講心得	①本科目は録画形式メディア授業対応である。 ②講義時にはレジュメ、資料を配布する。 ③資料、専門書、論文などは初回講義で配布する詳細なシラバスで紹介する。 ④半期15回で国際法と国際私法を俯瞰するので、毎回の講義に備えて、受講生には十分な予習と復習が求められる。 ⑤事例研究として、知的財産に関する事件を中心に扱うので、日本の知的財産法、知的財産条約との関連性を十分に意識することが求められる。 ⑥提出された「研究メモ」について、誤解や不正解の多い箇所は講義中に解説するので、できるだけ早く疑問点を解消することを求める。
------	---

オフィスアワー

オフィスアワーは、水曜日4限(松井研究室)とする。
オフィスアワー以外の時間の訪問については、事前にアポイントメントをとること。